ディストレスと結婚満足度

土倉玲子
（北海道大学文学研究科）

Marital Distress and Marital Satisfaction

Reiko Tsuchikura

要約

本報告では、心理的ディストレスが結婚満足度に及ぼす影響について分析・検討を行った。その結果、結婚満足度に関しては妻の平均が夫の平均より有意に低いこと、家庭関連ディストレス度に関しては妻の平均が夫の平均より有意に高いことが示された。また家庭関連ディストレスと結婚満足度影響との関連に関しては、夫においても妻においても、家庭関連ディストレスがそれぞれが感じている結婚満足度に影響を与えていることが明らかになった。

キーワード：結婚満足度、心理的ディストレス

1. はじめに

日本における夫婦関係研究において、妻の結婚満足度が夫の結婚満足度より低いという結果がいくつかの研究で得られている。このことから結婚が基本的には夫婦を単位とする相互作用的な生活であるにも関わらず、夫と妻それぞれに対して異なる意味あいを持つ可能性が考えられる。実際、筆者の1999年度夫婦ペアデータ研究でも、夫婦関係満足度に関しては、妻の関係満足度は夫の関係満足度よりも有意に低かった(76.96 vs 71.73, $p<.01$)。妻の結婚満足度が夫の結婚満足度より低いひとつの原因として、結婚が夫と妻ぞれぞれにもたらすディディストレスの度合いが異なる可能性が考えられる。そこで本報告では、結婚が夫と妻それぞれに対して持つ影響について、毎日の生活で個々人が経験するディストレスという側面から考察していくこととする。

2. 方法

(1)データ

NFR99、既婚者男女、未婚（結婚したことがない回答者）男女

(2)分析に使った変数

回答者が日々感じているディストレス 11 項目の平均をとって「一般的ディストレス度」という新しい変数を作成した。具体的には、「この一週間のあなたのからだや心の状態についてお聞きします。以下のような気分やことがらをどのくらい経験しましたか。」という質問に関して、

（ア）ふだんは何でもないことをわずらわしいと感じたこと、（イ）家族や友達から励ましてもらっても気分が晴れないこと、（ウ）憂うつだと感じたこと、（エ）他の人と同じ程度の能力があると思ったこと、（オ）物事に集中できなかったこと、（カ）食欲が落ちたこと、（キ）何をするのも面倒だと感じたこと、（ク）これから先のことについて積極的に考えたこと、（ケ）何か恐ろしい気持ちがしたこと、（コ）なかなか眠れなかったこと、（サ）生活について不満なく過ごせたこと、（シ）ふだんより口数が少なくなったこと、（ス）一人ぼっちで寂しいと感じたこと、（セ）「毎日が楽しい」と感じたこと、（ソ）悲しいと感じたこと、（タ）仕事が手につかなかったことの 11 項目をあげている（1 まったくなかった---4 ほとんど毎日）。この中で（エ）（ク）（サ）（セ）の 4 項目に関しては逆転項目とした。さらにより具体的な家庭ディストレス 5 項目の平均をとって新しい変数「家庭関連ディストレス度」を作成し、仕事関係ディストレス 2 項目の平均をとって新しい変数「職業関連ディストレス度」を作成した。具体的には家庭関連ディストレス度として、（ア）子供のことで悩んだこと、（イ）配偶者のことで悩んだこと、（ウ）親・義理の親のことで悩んだこと、（エ）「自分が家族に理解されていない」と感じたこと、（オ）家庭内での自分の負担が大きすぎると感じたことの 5 項目があげられ、また職業関連ディストレス度としては、（カ）職場での仕事の負担が大きすぎると感じたこと、（キ）職場や仕事上で「自分が理解されていない」と感じたことの 2 項目があげられている（1 何度もあった---4 まったくなかった）。家庭関連ディストレス度と職業関連ディストレス度に関しては、一般的ディストレス度と方向を一緒にするために逆転化した。さらに結婚満足度として、「配偶者の家事への取り組み方についての満足度」、「配偶者の育児や子供との関わりについての満足度」、「家計の分配・運営についえの満足度」、「性生活についての満足度」、「結婚生活全体についての満足度」の 5 項目の平均（1 かなり満足---4 かなり不満）をとって、「結婚満足度」として新しい変数を作成した。「結婚満足度」に関しても、「一般的ディストレス度」と方向を同一にするために逆転化を行っている。最後に結婚しているかどうか（結婚したことはない---0，パートナーがいる---1、）に関して、「未婚既婚の別」という新しい変数を作成した。

(3)分析

本報告の分析では、回答者全体を男女に分けて分析を行うと同時に、ライフステージにおける影響の違いについても検討するために、回答者の年代を-39 才以下(n=1560)、40-59 才(n=2840)、60 才以上(n=1854)の三グループに分けて行う。分析では、(1)既婚であることが一般的ディストレス度に与える影響、(2)夫と妻における結婚満足度平均の比較、(3)夫と妻における一般的ディストレス度平均の比較、(4)一般的ディストレス度が、結婚満足度に与えている影響、(5)家庭関連ディストレス度平均、及び職業関連ディストレス度平均の比較、(6) 家庭関連ディストレス度、及び職業関連ディストレス度が、結婚満足度に与えている影響などについて検討を行う。

3. 結果

(1)未婚既婚別一般的ディストレス度

最初に既婚であることが一般的ディストレス度に与える影響について検討を行うために、回答者を男性と女性に分けて、一般的ディストレス度と「未婚既婚の別」の間の相関分析を行った。その結果、男性に関してはディストレスと「未婚既婚の別」の間に有意な相関(n=2,870, r=-.18, p<.01)が認められたが、女性には有意な相関は認められなかった(n=2,806, r=-.03, *ns*)。この結果は結婚が男性のディストレスに対してはプラスの方向に働く一方、女性のディストレスに関しては有意な効果を持たない可能性を示唆している。なお前述の傾向について、年代による違いは見られなかった。

表1　一般的ディストレス度と「未婚既婚の別」との相関

年齢	男	女
30-39	r=-.20** (n=723)	r=.03 (n=785)
40-59	r=-.20** (n=1299)	r=.00 (n=1349)

注) 60才以上についてはサンプル数が少なく統計上信頼度が低いので省いた

(2)結婚満足度を夫と妻で比較する

第二に結婚満足度平均が夫と妻の間で異なるかどうかについて検討を行った。その結果、既婚回答者全体を対象とした分析では、妻の結婚満足度平均は夫の結婚満足度平均よりも有意に低いという結果が得られた(n=4,314, 3.19 vs 2.81, p<.01)。この傾向についても年代による差違は認められなかった。この結果は、NFR99 データにおいても、年代に関わらず妻の結婚満足度が夫の結婚満足度よりも有意に低いことを示している。

表2　結婚満足度平均の比較：夫－妻

年齢	夫 － 妻
30-39	.42** (n=974)
40-59	.37** (n=2260)
60+	.32** (n=1299)

(3)一般的ディストレス度を夫と妻で比較する

第三に一般的ディストレス度が夫と妻の間で異なるかどうかについての検討を行った。その結果、妻が感じている一般的ディストレス度は、夫が感じている一般的ディストレス度よりも有意に高いという結果が得られた(1.72 vs 1.80, p<.01, n=5,062)。年代による差違は認められなかった。

表3　一般的ディストレス平均の比較：夫ー妻

年齢	夫　ー　妻
30-39	-.07** (n=1118)
40-59	-.08** (n=2260)
60+	-.06** (n=1350)

(4)一般的ディストレス度が結婚満足度に与えている影響について

第四に一般的ディストレス度が結婚満足度に与えている影響について分析を行った。その結果、夫の場合にも(n=2,029,r=-.29, p<.01)妻の場合にも(n=2,016,r=-.37, p<.01)、一般的ディストレス度と結婚満足度との間には有意な負の相関が認められた。つまり一般的ディストレス度を強く感じている回答者ほど、結婚満足度は低い傾向が認められた。前述のパターンに年代による差違は認められなかった。

表4　一般的ディストレス度と結婚満足度との相関

年齢	夫	妻
30-39	r=-.32** (n=401)	r=-.42** (n=529)
40-59	r=-.26** (n=1030)	r=-.36** (n=1078)
60+	r=-.31** (n=598)	r=-.31** (n=409)

(5)夫と妻の比較-----家庭関連ディストレス度及び職業関連ディストレス度

第五に家庭関連ディストレス度平均と、職業関連ディストレス度が、夫と妻との間で異なっているかどうかについて検討を行った。その結果、家庭関連ディストレス度に関しては、妻のディストレス度が夫のディストレス度よりも有意に高かった(n=3,563,1.76 vs 2.14, p<.01)。そして職業関連ディストレス度については、夫のディストレス度が妻のディストレス度よりも有意に高かった(n=3,698,1.89 vs 1.82, p<.05)。前述のパターンに夫と妻とで差違は認められなかった。

表5 家庭関連ディストレス度、及び仕事関連ディストレス度における平均の比較：夫ー妻

年齢	家庭関連ディストレス度	仕事関連ディストレス度
30-39	-.44** (n=969)	.23** (n=874)
40-59	-.38** (n=2133)	.07 ** (n=2226)
60+	-.17** (n=598)	-.04 (n=594)

(6)夫と妻の比較-----家庭関連ディストレス度、及び仕事関連ディストレス度が結婚満足度に及ぼしている影響について

最後に家庭関連ディストレス度、及び仕事関連ディストレスが、結婚満足度に及ぼす影響に関する分析を行った。その結果、家庭関連ディストレス度(夫; n=1,621,r=-.32, p<.01:妻; n=1,632, r=-.42, p<.01)も職業関連ディストレス度(夫; n=1,816,r=-.14, p<.01:妻; n=1,210, r=-.20, p<.01) もそれぞれ、結婚満足度に対して影響を持つことが明らかにされた。次に結婚満足度に対する影響力の相対的強さを調べるために、結婚満足度を従属変数とし、家庭関連ディストレス度と職業関連ディストレス度を独立変数とする重回帰分析を行った。その結果、結婚満足度に関しては、仕事関連ディストレスよりも家庭関連ディストレス度の影響力が大きいことが示された(夫;n=1502,家庭関連ディストレス度β=-.31, p<.01, 職業関連ディストレス度, β=-.00, ns, : 妻;n=995 家庭関連ディストレス度β=-.42, p<.01, 職業関連ディストレス度, β=-.01, ns)。前述の傾向に年代による大きな差違は見られなかった。

表6-1　家庭関連ディストレスと結婚満足度との相関

年齢	夫	妻
30-39	r=-.33** (n=429)	r=-.41** (n=578)
40-59	r=-.32** (n=1062)	r=-.43** (n=1080)
60+	r=-.33** (n=271)	r=-.44** (n=148)

表6-2　仕事関連ディストレスと結婚満足度との相関

年齢	夫	妻
30-39	r=-.05 (n=517)	r=-.15** (n=352)
40-59	r=-.13** (n=1236)	r=-.17** (n=959)
60+	r=-.11** (n=421)	r=-.19* (n=166)

表 6-3 家庭関連ディストレス、及び仕事関連ディストレスが結婚満足度に及ぼす影響

（重回帰分析）

夫の場合

（従属変数は結婚満足度）

年齢	家庭関連ディストレス	仕事関連ディストレス
30-39 (n=410)	-.36**	-.01
40-59 (n=960)	-.30**	-.02
60+ (n=130)	-.30**	-.14

妻の場合

（従属変数は結婚満足度）

年齢	家庭関連ディストレス	仕事関連ディストレス
30-39 (n=286)	-.40**	-.02
40-59 (n=675)	-.44**	-.00
60+ (n=32)	-.26**	-.24

4　考察

本報告における分析からは、まず一般的ディストレスに関して、結婚が男性のディストレスに対してはプラスの方向に働く一方（一般的ディストレスを軽減する）、女性のディストレスに関しては有意な効果を持たない可能性を示唆された。そして一旦現実に結婚すると、結婚満足度は妻の平均が夫の平均よりも有意に低く、またディストレスに関しては、家庭関連ディストレスに関しても、一般的ディストレスに関しても、妻の感じているディストレスが、夫が感じているディストレスよりも有意に高い傾向が示された。これらの傾向は、結婚がまだ男性にとって有利なものであって、女性にとっては負担の多いものである可能性を示唆している。今後はディストレスを生み出す、具体的な家庭内要因について、より詳細な検討が望まれるだろう。

文部省科学研究費基盤研究（A）：10301010
家族生活についての全国調査（NFR98）報告書 No. 2-3

現代日本の夫婦関係

Marital Relations in Contemporary Japan

岩 井 紀 子 編

2001 年 6 月

日本家族社会学会
全国家族調査（NFR）研究会